

名古屋大学・東海国立大学機構の挑戦

東海国立大学機構理事

名古屋大学副総長

杉山 直

指定国立大学構想で約束したこと

名古屋大学 指定国立大学法人構想概要

～世界屈指の研究大学を目指して～



NAGOYA UNIVERSITY

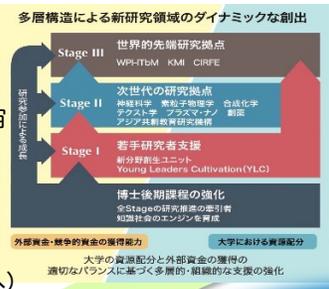


世界屈指の研究成果を生み出す研究大学へ

01

世界的に卓越した研究拠点の確立

- ◆ 世界的に卓越した研究拠点の確立
 - ・重点分野として「WPI拠点が先導する化学・生物学融合研究」「未来エレクトロニクス研究」「素粒子・宇宙物理学」「超高齢社会を支える医学・生命科学研究」
- ◆ 若手や次世代を担う研究拠点候補を重点的に育成・支援する「研究の進展に合わせた多層的なシステム」の構築
 - ・最先端国際研究ユニット(WPI-next)の拡大 (6ユニットへ)
 - ・若手育成プログラム (Young Leaders Cultivation) の拡大 (50名へ)
 - ・若手新分野創成研究ユニットの拡大 (16ユニットへ) 等



02

知識基盤社会をリードする卓越した博士人材の育成



- ◆ 博士課程教育の高度化と質保証に向けた全学的プラットフォーム「博士課程教育推進機構」の設置
 - ・トランスファラブル・スキルの涵養 等
- ◆ 最先端研究拠点等と連携した博士課程教育プログラムの提供
 - ・卓越大学院の設置 等
- ◆ 国際研究ネットワークと連動したジョイント・ディグリー実施 (20ユニット)
- ◆ 産学共創教育(Sharing Education)の推進
- ◆ 博士後期課程学生の経済支援・キャリアパスの拡大
 - ・基金を活用した奨学金の創設 等

世界屈指の研究大学へ



世界から人が集まる国際的なキャンパスと海外展開

03

- ◆ 国際的に魅力ある教育プログラムの充実 (3,200名の留学生受入へ)
 - ・大学院授業の英語化の推進
 - ・G30プログラムによる留学生受け入れ枠の拡大 等
- ◆ G30プログラムの日本人学生への拡大
- ◆ ジョイント・ディグリー推進につながる国際大学間コンソーシアムを主導
- ◆ アジアの研究者と世界の課題解決に挑む「アジア共創教育研究機構」の活動推進
- ◆ 海外への情報発信機能の強化に向けた広報体制の拡充

04

社会と共に躍進する名古屋大学



- ◆ イノベーションの創出、実践的人材育成、産業界への貢献等に向けた研究マネジメント体制の強化
- ◆ 「組織」対「組織」の本格的な産学共同研究の推進
 - ・共同研究費用負担の適正化に対応する「指定共同研究」の推進
 - ・産学共同研究講座・部門の拡充 (50へ) 等
- ◆ 産学官共創によるオープンイノベーション研究開発拠点の整備
- ◆ 大学発ベンチャー企業の創出による産業界への貢献
 - ・スタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育の充実 等



機動的な改革を支えるシェアド・ガバナンスの構築

05

- ◆ 機動的な施策提示・審議・執行が可能な体制構築
 - ・統括理事(プロボスト)の設置
 - ・学内の多様な意見の反映に向けた教育研究評議会の見直し 等
- ◆ 戦略的で開かれた教員選考の実施
- ◆ 男女共同参画の推進 (女性教員比率を30%へ)
- ◆ ユニバーシティ・デザイン・ワークショップによる大学経営人材の育成

06

経営資源の好循環による財務基盤の強化



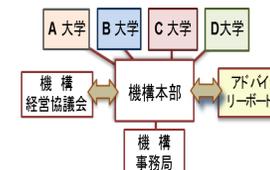
- ◆ 総長直轄組織であるDevelopment Officeを中心としたファンドレイジングの機能強化 (基金残高100億円以上)
 - ・株式等の評価性資産の寄附受入の強化
 - ・同窓会海外支部を通じた外国人卒業生へのファンドレイジングの強化 等
- ◆ 財源の多様化による財務基盤の強化
 - ・財務戦略室を中心とした収益事業強化 (大学保有不動産の活用、エクステンション・プログラム開設 等)



新たなマルチ・キャンパスシステムの樹立による持続的発展

07

- ◆ 参加大学の自律性を尊重しながらも、地域の国立大学間の壁を取り払う新たなマルチ・キャンパスシステムを実現
 - ・個々の大学の持つ強みに応じた研究拠点形成、教育研究機能強化、公的資金・外部資金の獲得増、国際競争力強化 等



05ガバナンス改革



機動的な改革を支える

シェアド・ガバナンスの構築

05

- ◆ **機動的な施策提示・審議・執行が可能な体制構築**
 - ・ 統括理事（プロボスト）の設置
 - ・ 学内の多様な意見の反映に向けた教育研究評議会の見直し 等
- ◆ **戦略的で開かれた教員選考の実施**
- ◆ **男女共同参画の推進（女性教員比率を30%へ）**
- ◆ **ユニバーシティ・デザイン・ワークショップによる大学経営人材の育成**

シェアドガバナンスを踏まえた総長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

機動的な改革を支えるシェアド・ガバナンスの構築

◎審議・執行体制の見直し

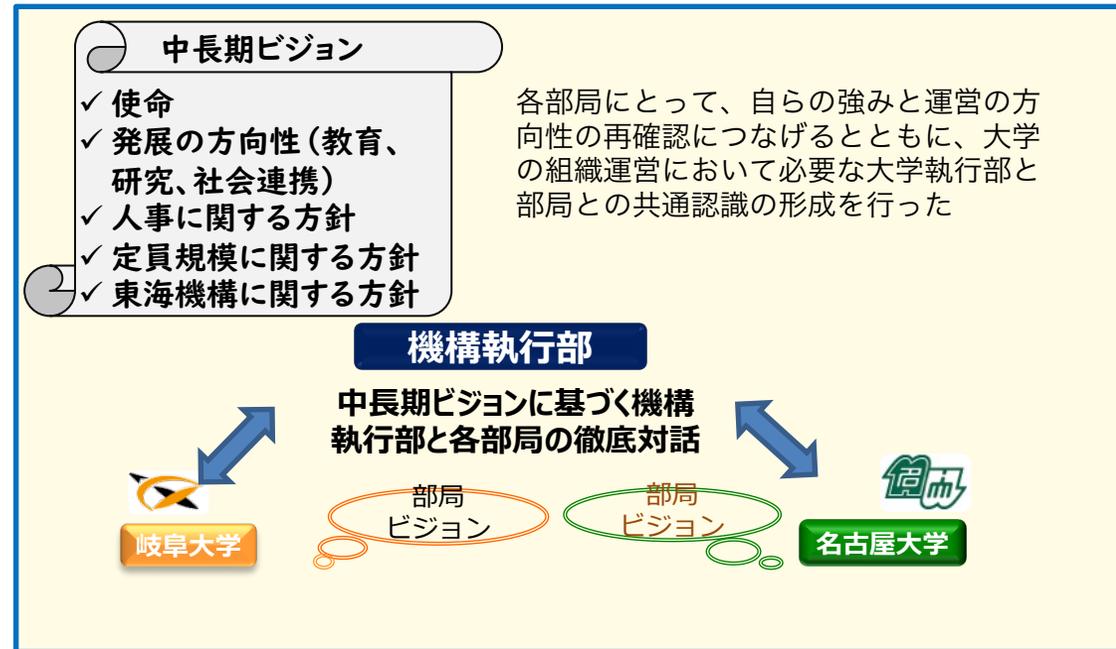
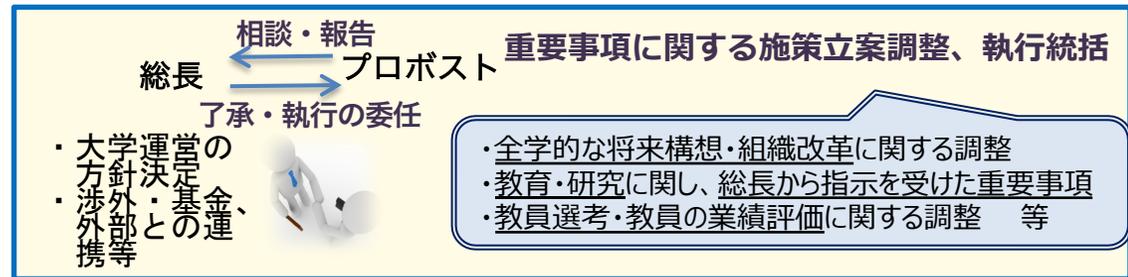
- ◆将来構想策定など全学的な課題対応の調整を図る**副総長（プロボスト）の設置**
- ◆重要施策の執行管理や全学的な情報共有の場として、プロボストによる**執行会議の設置**
- ◆教育研究評議会の下に将来構想、総務、教育、研究戦略・社会連携、国際の**分科会設置**
- ◆女性教員の教育研究評議会への参画推進（**2割**）

◎対話を通じた部局の中長期ビジョンの策定

- ◆部局長任期を超え持続する「部局の中長期ビジョン」（10年）を全部局策定

◎教員人事方針の見直し

- ◆全教授ポストについて、プロボストが主催する「人事選考委員会」によるチェック・承認
- ◆承継ポストについて、人事ポイント化



06 財務基盤の強化

06

経営資源の好循環による
財務基盤の強化



- ◆ 総長直轄組織であるDevelopment Officeを中心としたファンドレイジングの機能強化（基金残高100億円以上）
 - ・ 株式等の評価性資産の寄附受入の強化
 - ・ 同窓会海外支部を通じた外国人卒業生へのファンドレイジングの強化 等
- ◆ 財源の多様化による財務基盤の強化
 - ・ 財務戦略室を中心とした収益事業強化（大学保有不動産の活用、エクステンション・プログラム開設 等）

経営資源の好循環による財務基盤の強化

財務基盤の強化

◎募金活動の一層の推進を図るため、日本初総長直轄組織として「Development Office」(DO室)設置(平成29年度)

◆東京地区担当ファンドレイザー、基金推進アドバイザー、名古屋地区担当ファンドレイザーの配置等、ファンドレイジング機能の継続的強化の実績として、有価証券、研究施設建設など現金によらない高額寄附の増加、クラウドファンディングやネーミングライツの使用許諾の導入など**財源の多様化を着実に推進**

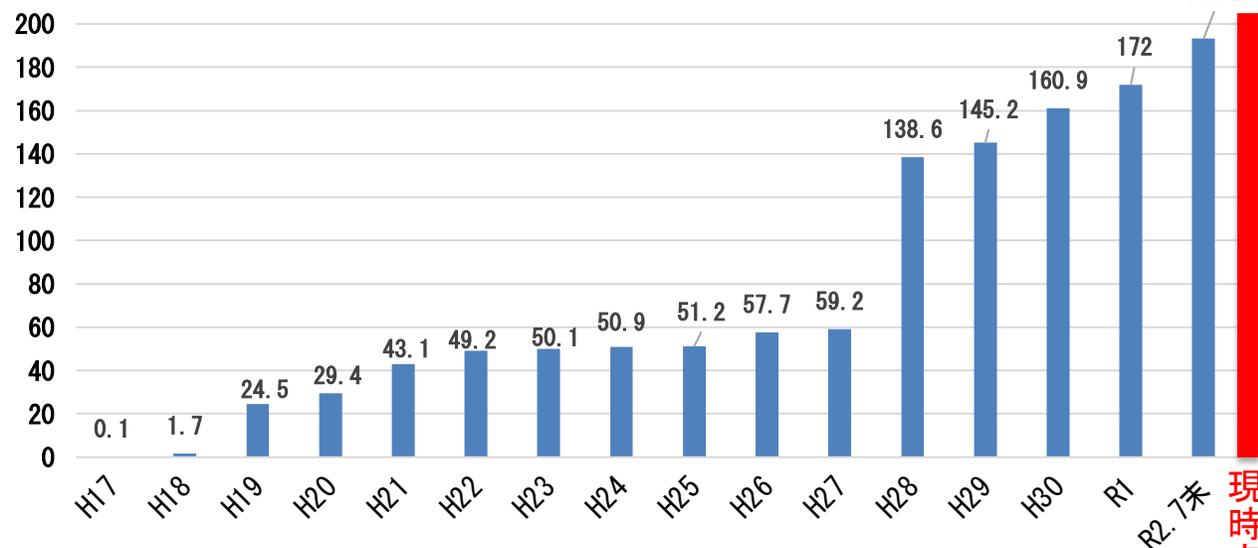
◎名古屋大学基金は、令和3年度末に200億円の目標額を掲げ、令和3年11月までに**累計額約200.87億円**を実現!

◎目的指定の特定基金を立ち上げ、**32支援事業**

特定基金一覧 (令和2年8月)

工学部・工学研究科支援事業	創薬科学研究科支援事業
青色LED・未来材料研究支援事業	理学部学生支援事業
アジア法律家育成支援事業	PhD登龍門支援事業
女性リーダー育成支援事業	名古屋大学博物館支援事業
名古屋高等商業学校・名古屋大学経済学部・経済学研究科100周年記念支援事業	教育学部・教育発達科学研究科創設70周年記念学生支援事業
医学系未来人材育成支援事業	数理科学学生支援事業
名古屋大学「大学発ベンチャー応援事業」	巨大災害から次世代を守る減災館支援事業
医学部附属病院支援事業	名古屋大学附属図書館支援事業
創立75周年記念文学部研究基盤整備支援事業	創基150周年医学部基盤整備支援事業
ジェンダー平等支援事業(女性教員・管理職登用促進事業)	総合科学による古代エジプト調査研究支援事業
農学部・生命農学研究科教育研究支援事業	名古屋大学漕艇部艇庫・合宿所等整備支援事業
名古屋大学修学支援事業	博士課程人材育成支援事業
トランスフォーマティブ生命分子研究所支援事業	次世代保健医療リーダー育成支援事業
教育学部附属中・高等学校75周年記念国際化推進支援事業	新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金

名古屋大学基金累計額 (億円)



注) 現金, 物納, 有価証券の累計額

200.87
億円

現時点

04 産学連携

04

社会と共に
躍進する名古屋大学



- ◆ **イノベーションの創出、実践的人材育成、産業界への貢献等に向けた研究マネジメント体制の強化**
- ◆ **「組織」対「組織」の本格的な産学共同研究の推進**
 - ・ 共同研究費用負担の適正化に対応する「指定共同研究」の推進
 - ・ 産学共同研究講座・部門の拡充（50へ）等
- ◆ **産学官共創によるオープンイノベーション研究開発拠点の整備**
- ◆ **大学発ベンチャー企業の創出による産業界への貢献**
 - ・ スタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育の充実 等

産学連携によって、社会と共に躍進する名古屋大学

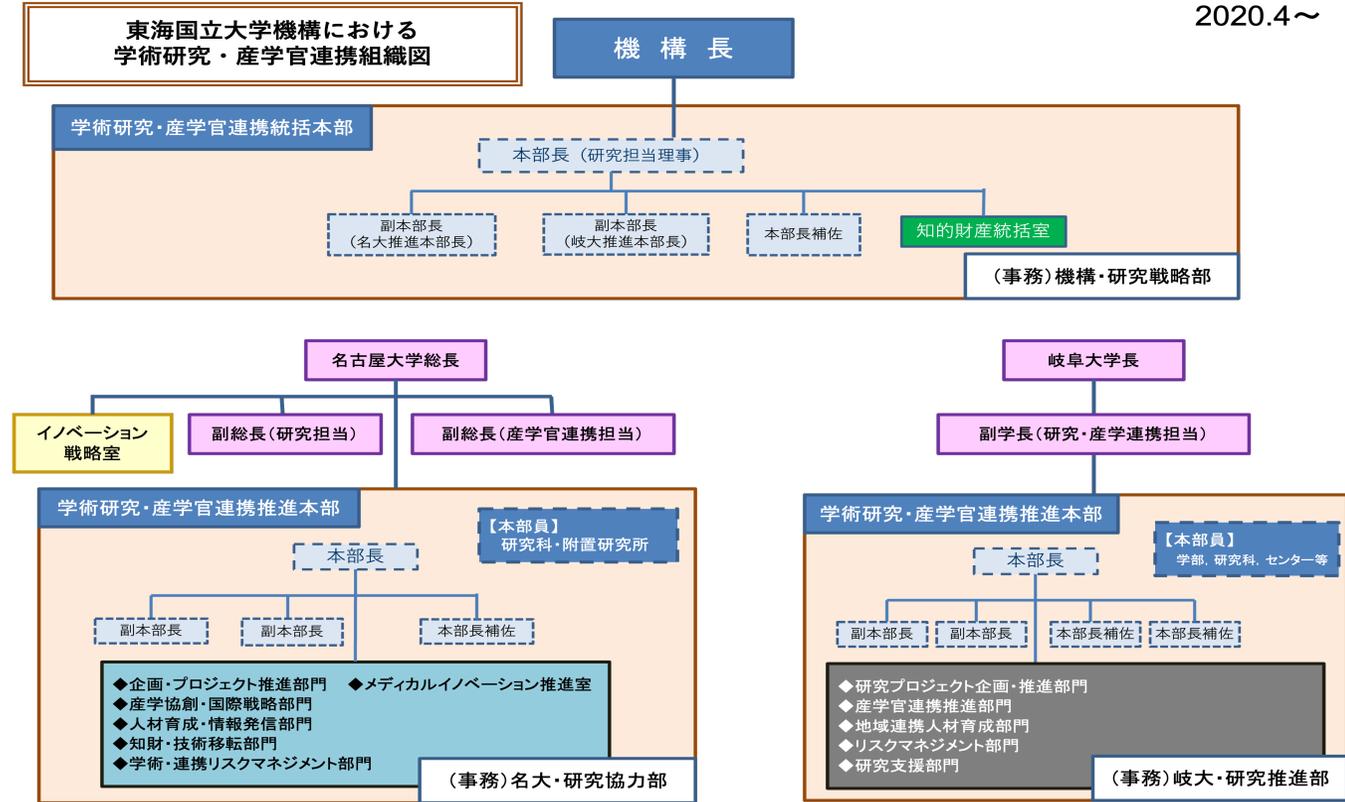
2020.4～

◎学術と産学連携を総合的に支援する組織構築

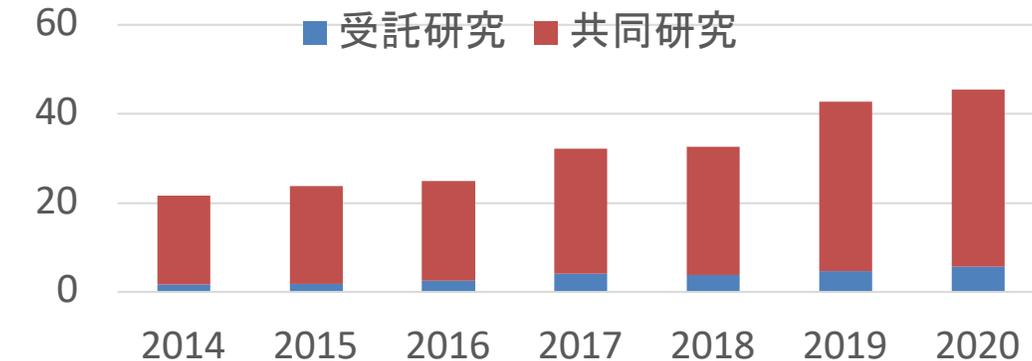
- ◆ 名古屋大学に学術研究・産学官連携推進本部を設置。研究と社会連携を推進するための支援を強力に行う
- ◆ 企画・プロジェクト推進部門、産学協創・国際戦略部門、人材育成・情報発信部門、知財・技術移転部門、学術・連携リスクマネジメント部門の5部門構成
- ◆ 各々の部門に国内最大規模のURA（総人数は40名強）を配置。
- ◆ 東海国立大学機構には、名大、岐阜大の支援組織を統合する形で、学術研究・産学官連携統括本部を設置

◎産学連携による資金の好循環の創出

- ◆ 受託研究・共同研究、指定国立大学に指定以降、一段の伸び
- ◆ 産学連携スペースの枯渇が問題。既存のNIC館が満杯状態。イノベーション創出強化事業（R3選定）により、学内にスペースを整備予定



億円 産学連携による資金流入



National Innovation Complex (NIC)館

07 東海国立大学機構



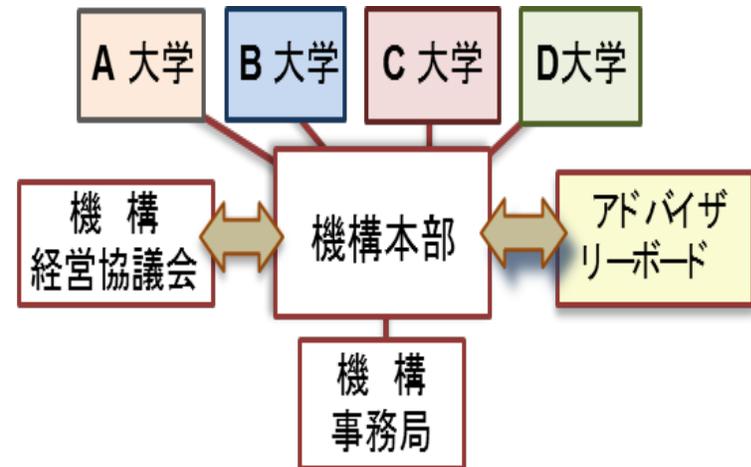
新たなマルチ・キャンパス

システムの樹立による持続的発展

07

◆ 参加大学の自律性を尊重しながらも、地域の国立大学間の壁を取り払う新たなマルチ・キャンパスシステムを実現

- 個々の大学の持つ強みに応じた研究拠点形成、教育研究機能強化、公的資金・外部資金の獲得増、国際競争力強化 等



国際競争力と地域共創貢献力の2つのミッションを同時に達成

現代社会において国立大学が期待されているミッション達成のためには、より大きな枠組みで地域共創貢献力（Ⅰ）と国際競争力（Ⅲ）を同時に強化することが不可欠

➡ **I + III = IVへの挑戦**

東海国立大学機構のビジョン

1. **世界最高水準の研究**の展開による知の拠点化
2. 国際通用性のある質の高い教育の実践とハブ化
3. 地域や社会との幅広い連携による諸課題の解決と

地域創生及び人類社会への貢献



I (地域共創貢献力)



III (国際競争力)

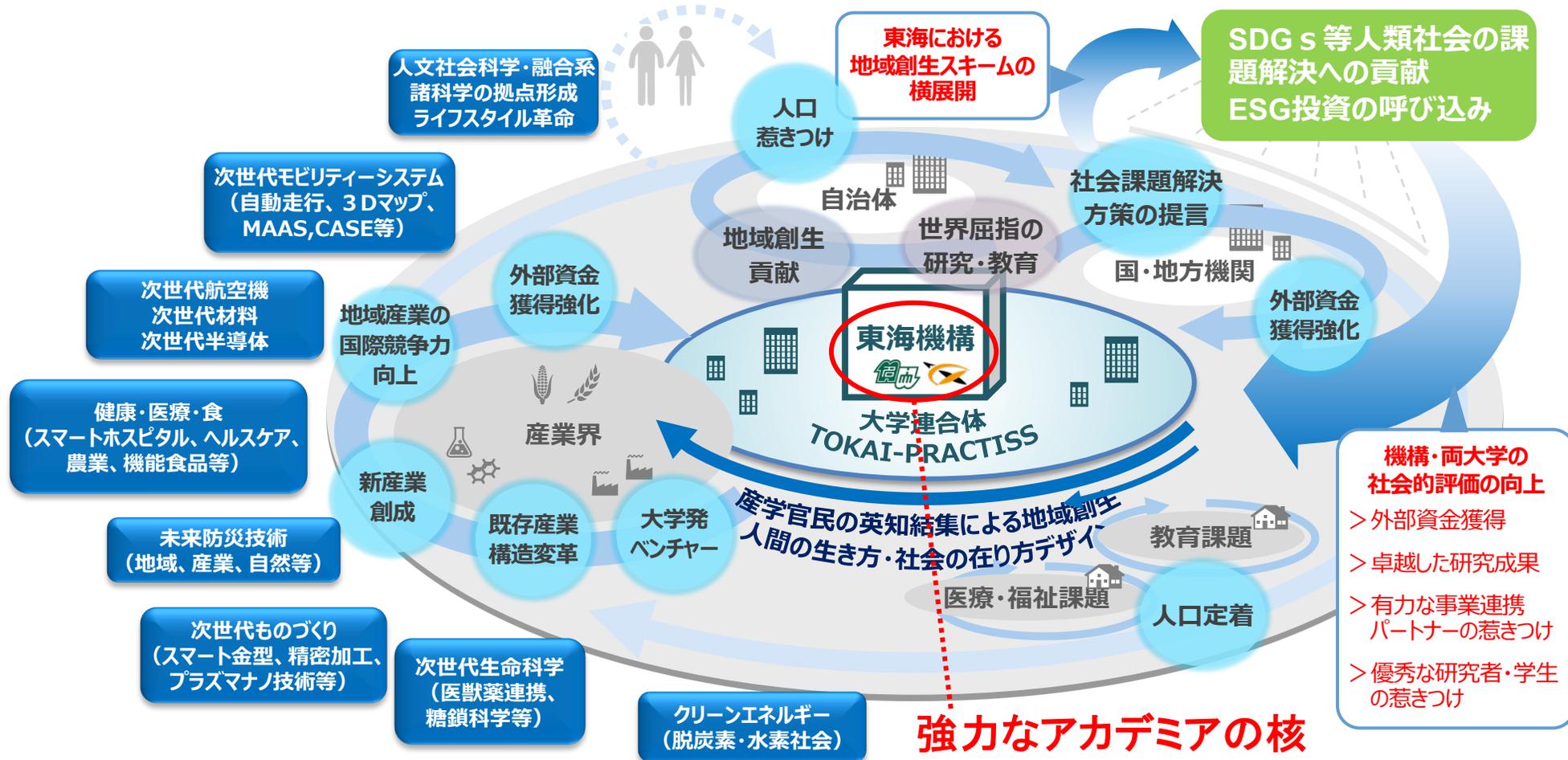


新しい大学モデル：持続的かつ先導的な東海地域を創生、同時に国際競争力を強化

TOKAI-PRACTISS（東海地域の大学・産業界・地域発展の好循環モデル）

Tokai Project to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society

- ✓ 東海機構及び大学連合体が“東海地域における地域創生の中核拠点”となり、世界トップレベルの“知”と、地域セクターとの緊密な協力支援関係を活用しながら、地域の構造変革を起こしていく



機構・両大学の社会的評価の向上

- > 外部資金獲得
- > 卓越した研究成果
- > 有力な事業連携パートナーの惹きつけ
- > 優秀な研究者・学生の惹きつけ

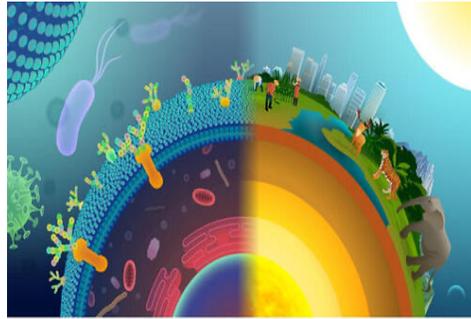
強力なアカデミアの核

両大学のリソースを統合して新たに構築する機構直轄拠点

改革強化推進補助金を戦略的に投下

糖鎖生命コア研究拠点

世界トップレベルの糖鎖化学・イメージング（岐阜大学）、糖鎖生物・糖鎖医学（名古屋大学）分野の両大学の研究者が集結し、**世界で無二の統合的糖鎖拠点を形成する。R3、共同利用、共同研究拠点認定！**



医療情報データ統合革新的医療研究拠点

診療情報を収集する基盤となる**標準化リポジトリ・システム**を両大学に構築。仕様が異なる複数ベンダーの電子カルテシステムからデータを収集し、**データ駆動型の研究を推進する臨床研究のプラットフォーム**を構築する。



航空宇宙融合教育研究拠点

我が国の航空宇宙生産の約50%が集中する**東海地域**において、産学官の強固な連携により、世界をリードする**航空宇宙産業クラスター形成と人材の輩出**に貢献する。



農学教育研究拠点

両大学が培ってきた農学に関わる教育研究リソースを統合し、**農業および生物産業に係わる高度な教育研究拠点を構築**。人材養成と研究を通して、**我が国のみならず、世界レベルの課題解決に向けた活動を推進**する。



02 教育改革

02

知識基盤社会をリードする
卓越した博士人材の育成

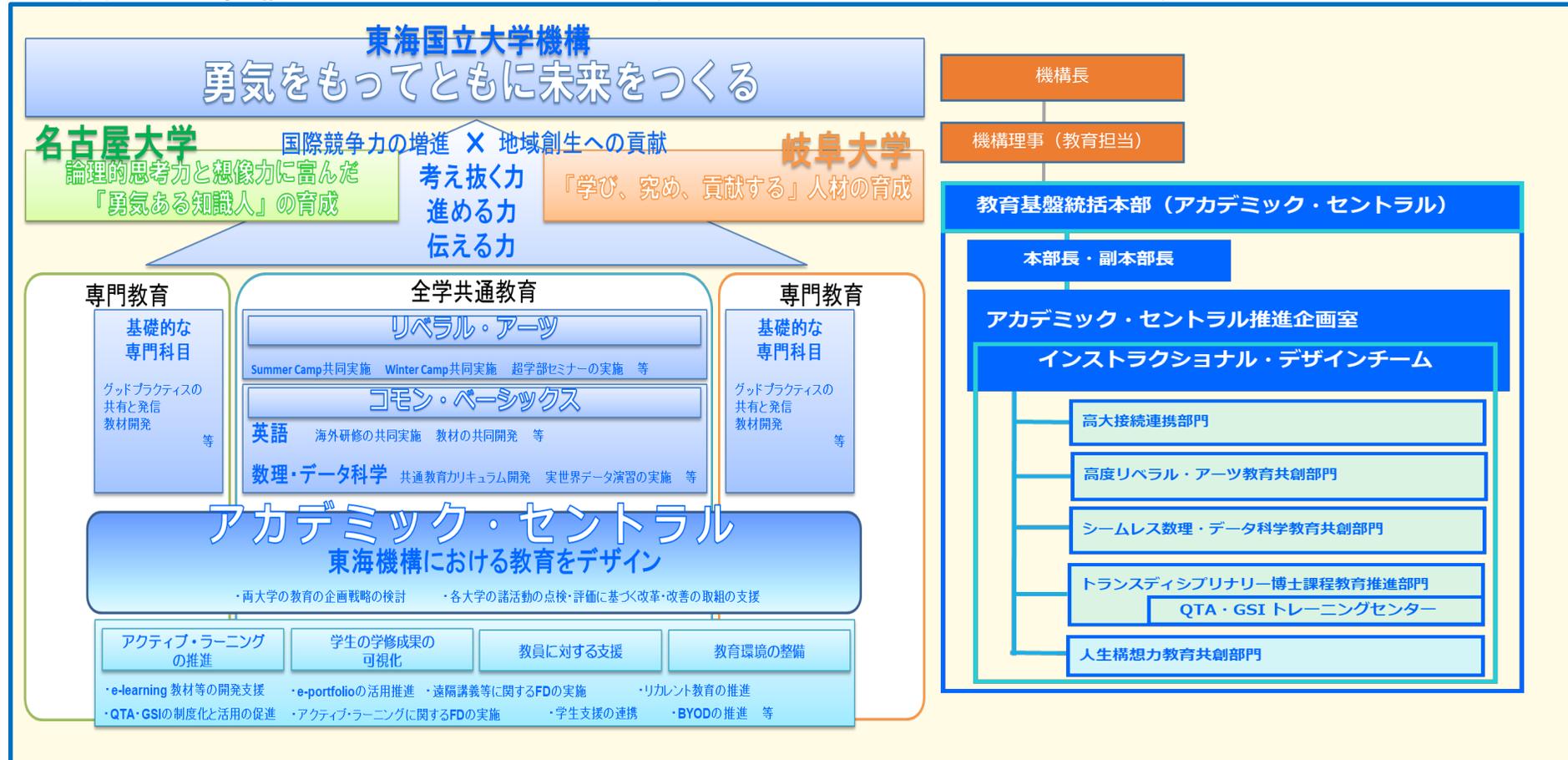


- ◆ 博士課程教育の高度化と質保証に向けた全学的プラットフォーム「博士課程教育推進機構」の設置
 - ・トランスファラブル・スキルの涵養 等
- ◆ 最先端研究拠点等と連携した博士課程教育プログラムの提供
 - ・卓越大学院の設置 等
- ◆ 国際研究ネットワークと連動したジョイント・ディグリー実施(20ユニット)
- ◆ 産学共創教育(Sharing Education)の推進
- ◆ 博士後期課程学生の経済支援・キャリアパスの拡大
 - ・基金を活用した奨学金の創設 等

国際通用性のある教育をデザインする：アカデミックセントラル構想

◎アカデミック・セントラル構想

- ◆ DX、グローバル化の進展で、知識や経験を学ぶ教育は相対的に価値が下がり、**新たな価値を生み出す力**が求められている
- ◆ 東海国立大学機構は「**勇気をもってともに未来をつくる**」を教育の共通理念として掲げ、社会課題に対して新たな価値を創造し対応できる人材を世界や地域に送り出す
- ◆ **アカデミック・セントラル**：様々な人が集まり知の結集を図り世界に飛翔することを支援する基盤。**東海国立大学機構の教育をデザインし、両大学共通教育に対する支援を展開。**



03 国際



世界から人が集まる

国際的なキャンパスと海外展開

03

- ◆ 国際的に魅力ある教育プログラムの充実（3,200名の留学生受入へ）
 - ・ 大学院授業の英語化の推進
 - ・ G30プログラムによる留学生受け入れ枠の拡大 等
- ◆ G30プログラムの日本人学生への拡大
- ◆ ジョイント・ディグリー推進につながる国際大学間コンソーシアムを主導
- ◆ アジアの研究者と世界の課題解決に挑む「アジア共創教育研究機構」の活動推進
- ◆ 海外への情報発信機能の強化に向けた広報体制の拡充

アジアを中心にした特徴ある国際展開

◎Joint Degreeプログラム

- ◆ トップランク大学とのJoint Degreeプログラム拡大：2017は6 ユニット、2019には14 ユニット。
- ◆ 2015.10に我が国初の国際連携専攻を開設,現在の専攻数は全国の**25%**(東海国立大学機構においては全国の**40%**)

アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム (博士課程、2014年開始)



◎アジア中心の国際展開

- ◆ 国家中枢人材養成プログラム：アジア諸国に行政官などのための博士後期課程を設置
- ◆ 日本法教育研究センター：アジア諸国に日本語で日本の法律を学ぶコースを設置、法整備の支援を合わせて行う
- ◆ 農学国際教育研究センター：農学の開発問題の実践的に解決する人づくりを目的。国際熱帯農学ステーションに発展
- ◆ 海外同窓会：アジアに15支部設置

01 世界屈指の研究大学



世界屈指の研究成果を
生み出す研究大学へ

01

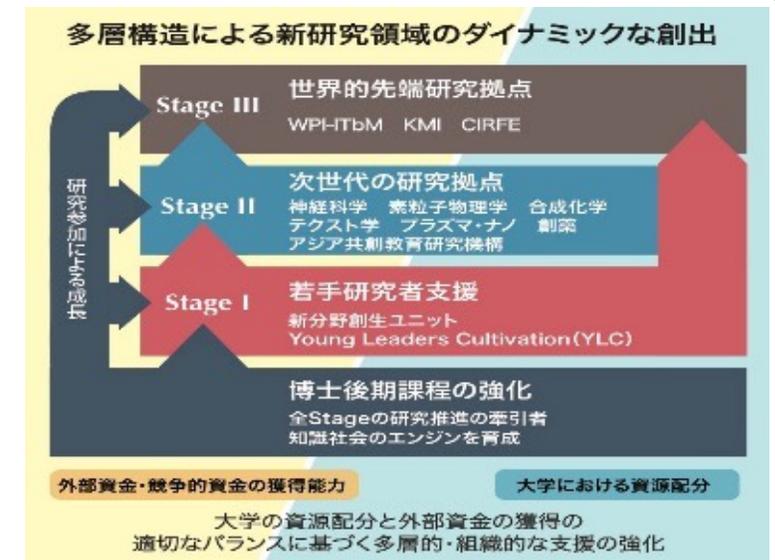
◆ 世界的に卓越した研究拠点の確立

- 重点分野として「WPI拠点が先導する化学・生物学融合研究」「未来エレクトロニクス研究」「素粒子・宇宙物理学」「超高齢社会を支える医学・生命科学研究」

◆ 若手や次世代を担う研究拠点候補を重点的に

育成・支援する「研究の進展に合わせた多層的なシステム」の構築

- 最先端国際研究ユニット(WPI-next)拡大 (6ユニットへ)
- 若手育成プログラム (Young Leaders Cultivation) 拡大 (50名へ)
- 若手新分野創成研究ユニットの拡大 (16ユニットへ) 等



ノーベル賞のレガシーを越えて、世界屈指の研究大学へ

◎研究力強化

- ◆ 次世代WPI候補、国際共同研究、若手分野横断の3つのカテゴリーでユニットに対して重点的に支援実施
- ◆ 重点分野に集中的に投資：化学・植物(ITbM)、素粒子・宇宙(KMI)、GaNを中心としたエレクトロニクス(CIRFE)、低温プラズマ、糖鎖(機構直轄)など
- ◆ 論文発信などによる国際的知名度の上昇：Nature Index2021のrising starsのtop10に選定(2019-20で18-19より26%の論文増加)
- ◆ 基礎研究を統括する「国際高等研究機構」と応用研究を統括する「未来社会創造機構」を中心に、最先端研究からイノベーション創出まで

◎若手支援

- ◆ 独自の5年任期の特任助教YLCを選考(年間8名、女性・外国人枠あり)、これまで多くのトップ大学に常勤として羽ばたく。テニュアトラック枠も新たに設定
- ◆ URAなどによる若手の研究費等獲得支援：創発研究者がR2年は13名、R3年は25名選定(岐阜大は各々1名、2名)
- ◆ 創発、YLCなどの研究者には必要に応じて研究スペースなどの支援



年度	YLC教員数 (4/1時点)	新規採用者数	転出者数 (当該年度内)	主な転出先
H30年(2018)度	34	8	11	名大講師(病)1名、阪大特任准教授(情)1名 名大特任助教(理)1名、名大助教(農セ)1名 島根大助教(生)1名、首都大東京助教(理)1名 神戸大講師(文)1名
H31/R1(2019)度	31	8	9	JSPS特別研究員(海外)1名、理研研究員1名 JSPS特別研究員(RPD)1名、岐大テニュア助教1名 国立天文台・特任助教1名、中外製薬(株)研究員1名 名大准教授(人文)1名、名大G30特任准教授1名
R2年(2020)度	30	9	9	東大科研費研究員(理)1名、名大助教(工)1名 京大テニュア助教(人間)1名、名大ISEE准教授1名 名大KMI特任准教授1名、東北大准教授(セ)1名 筑波大テニュア助教(文)1名、金大准教授(文)1名
R3年(2021)度	29	8	1	名大ISEE准教授1名

YLC教員の現員数と転出数、転出先

第4期、そして次の10年で成し遂げること

基礎研究と応用・社会実装研究の両輪で世界屈指の研究大学へ

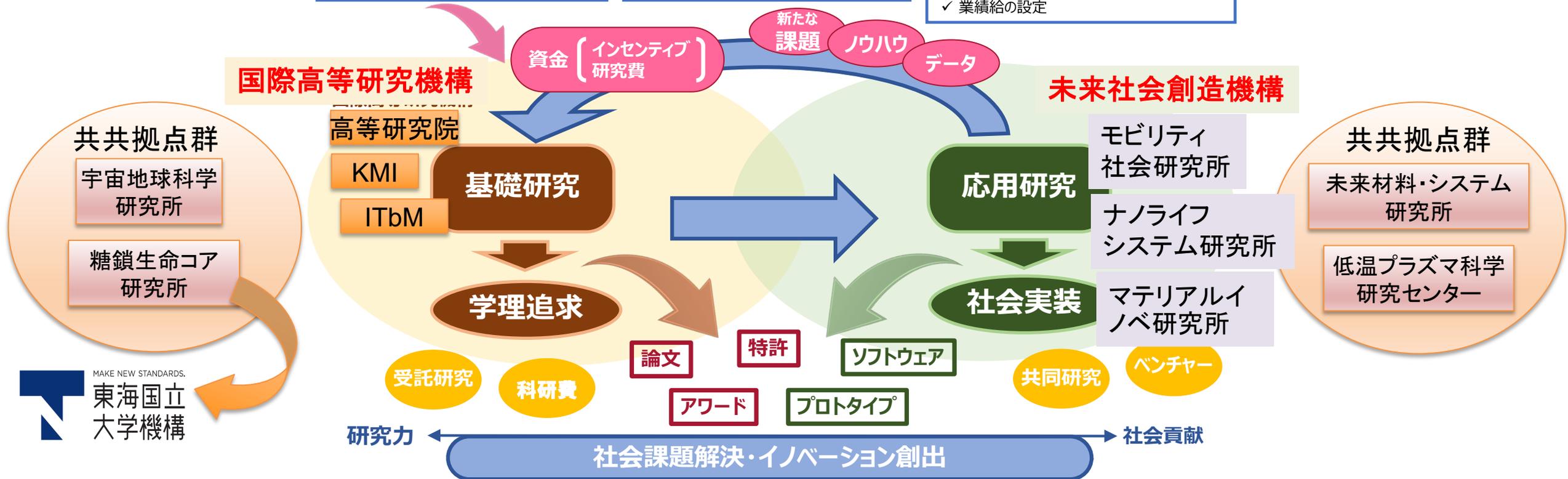
◎研究力強化

- ◆ 基礎研究を統括する「国際高等研究機構」と応用研究を統括する「未来社会創造機構」、加えて共同利用・共同研究拠点などに集中的に資源を投入。既存部局は教育・研究中心と役割分担。

研究力強化策 – 研究成果創出エコシステム –



資金投入方針	強化手段	強化具体策
<ul style="list-style-type: none"> ● 研究力強化2段階（長期・短期）戦略 ● 先端研究への重点支援 ● 研究好循環システムの構築 ● アクティビティに応じたインセンティブ設定 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外トップ研究者の招へい <p><i>具体的計画は現在策定中</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 厳格な評価に連動したインセンティブ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 独自のWPIレベル拠点を10程度設置 ✓ 自由かつ豊潤な研究環境、研究費支弁 ✓ クロスアポイントメント（10ヶ月給与）の活用 ✓ 英語対応スタッフの増強 ✓ 業績給の設定



若手支援を通じて、世界トップレベル研究者養成

◎若手支援

◆ 大学院後期課程から、ポスドク、特任教員、承継教員、PI育成まで、総合パッケージを策定

30代後半
承継教員
特任教員

PI育成

- 創発的研究支援事業 (JST) 採択者に対する学内支援 <名古屋大学>
 - ・若手研究者を独立した研究室の主催者に育成
 - ・R2年度採択者：名古屋大学13名、岐阜大学1名
 - ・R3年度採択者 (予定)：名古屋大学25名、岐阜大学2名
 - ・研究スペースの提供、人件費の配当などの支援、総長等執行部も参加する研究発表会

R3創発：名古屋大学25名
研究スペース、人件費の配分

30代中盤
承継教員
特任教員

世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業 (R3年度～)

- 世界で活躍できる研究者戦略育成事業 (JST) 採択による東海機構内プログラム
 - ・大学院教育から世界的研究者として活躍するレベルをつなぐ包括的な若手研究者育成プログラムを構築
 - ・世界的研究拠点や国際的産学連携プロジェクトを企画・運営するトップ研究者やベンチャー起業家を輩出することを目指す
 - ・毎年度5名程度 (名古屋大学4名、岐阜大学1名程度)
 - ・研究費 (スタートアップ経費、テラーメード型研究費、シーズ共同研究) 支援など

30代前半
特任教員

YLCプログラム (Young Leaders Cultivation) ※東海国立大学機構 独自制度

- 名古屋大学
 - ・H21年度設立
 - ・総長立ち合いのもの大学全体で若手教員を選出
 - ・年間8名程度、女性枠・外国人枠 (各1名以上) あり
 - ・任期5年の特任助教として採用、採用年度を含めて3年度が経過した後に、希望者に対してテニュア審査
- 岐阜大学
 - ・R4年度から開始予定 (G-YLC)
 - ・年間1名 (予定)

20代
大学院学生

大学院博士後期課程学生支援

■ 卓越大学院プログラム (JSPS)

- ・トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム (H30年度～)
- ・未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム (H30年度～)
- ・情報・生命医科学コンポーネーショングローバルアライアンス卓越大学院 (R元年度～)
- ・ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム (R2年度～)

■ 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロウシップ創設事業 (JST)

- ・名古屋大学融合フロンティアフェロウシップ制度 (R3年度～)
アジア未来創造分野、情報・AI分野、量子科学分野、マテリアル分野の学生を対象

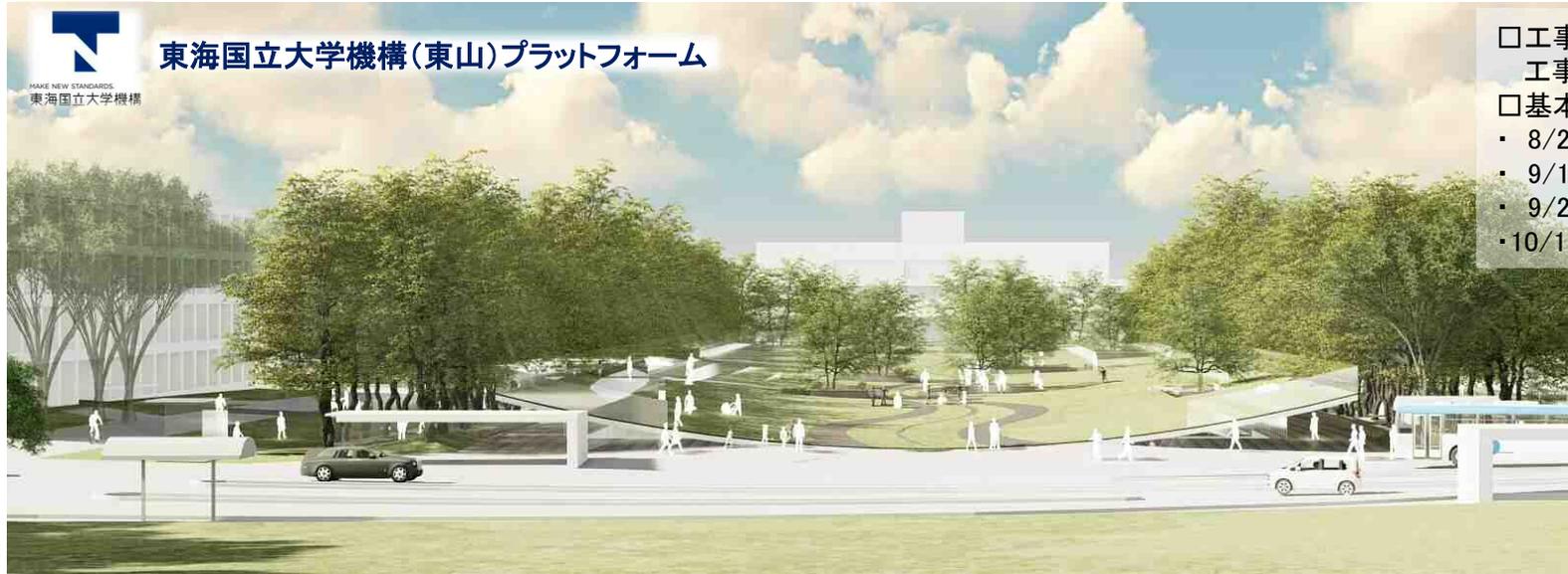
■ 博士課程教育リーディングプログラム (JSPS)

- ・グリーン自然科学国際教育研究プログラム (H23年度～)
- ・法制度設計・国際的移住専門家の養成プログラム (H23年度～)
- ・PhDプロフェッショナル登龍門 (H24年度～)
- ・フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム (H24年度～)
- ・実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム (H25年度～)
- ・「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラム (H25年度～)

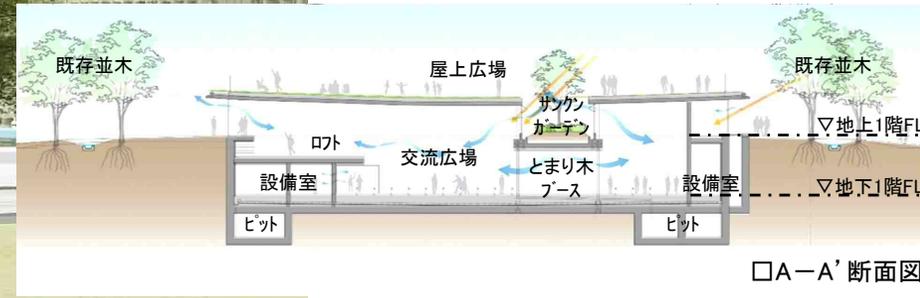
■ 次世代研究者挑戦的研究プログラム (JST)

- ・東海国立大学機構融合フロンティア次世代研究事業 (R3年度～)
バイオサイエンス分野、革新的学際分野、脱炭素・環境分野、グローバル推進分野の学生を対象

東海国立大大学機構の教育の基盤となる東海プラットフォーム建設



- 工事開始 2022年6月頃
- 工事完成 2024年3月末
- 基本設計関係スケジュール
 - ・ 8/26 設計ワークショップ_1回目
 - ・ 9/15 ウェビナー
 - ・ 9/29 設計ワークショップ_2回目
 - ・ 10/14 設計ワークショップ_3回目



■コンセプト

ゆるやかな傾斜のあるグリーンベルト

～屋根の上の緩やかな傾斜の大きな広場～

木漏れ日の中の学びの空間

～光・風・緑を感じる半外部のような地下空間～

変化し続けるプラットフォーム

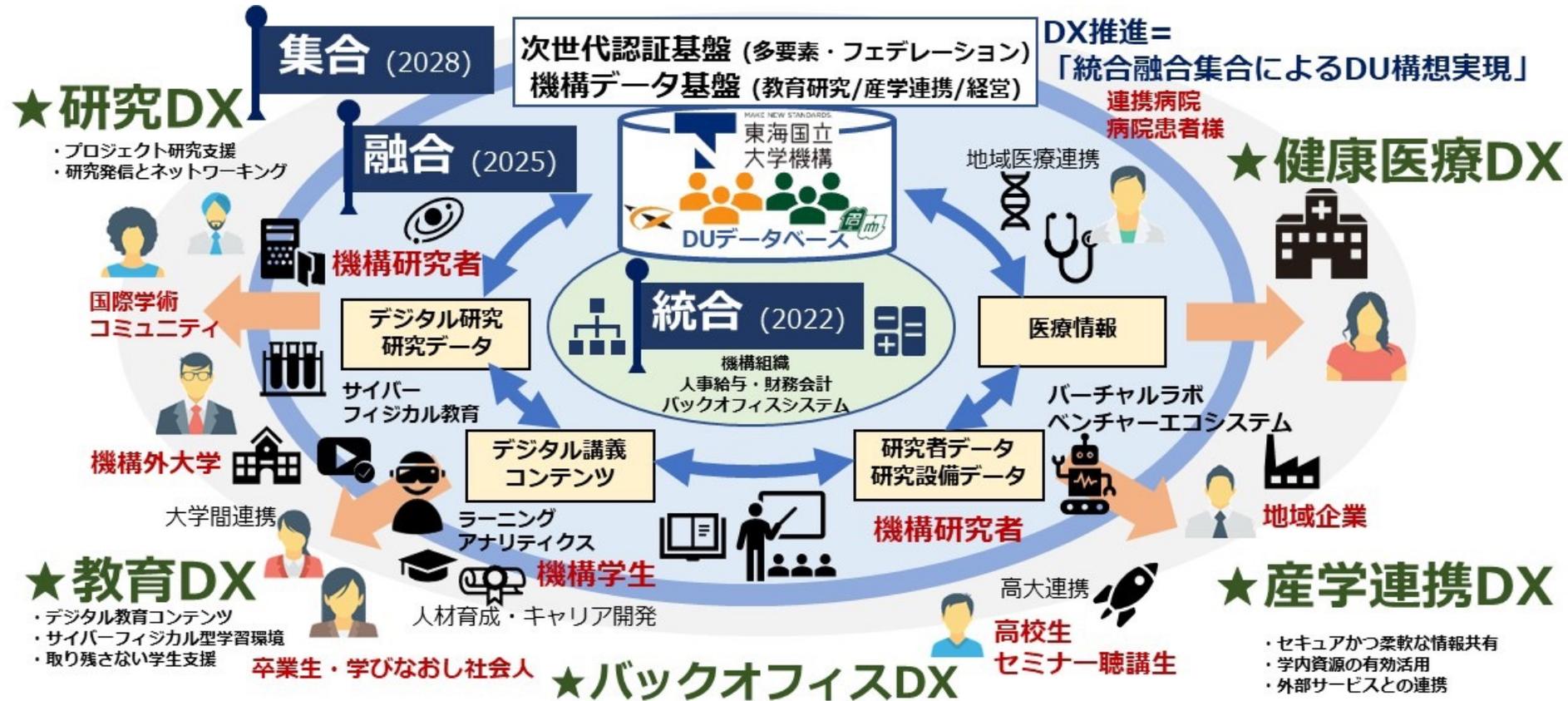
～みんなで作くり みんなでつかう～



デジタル・ユニバーシティ構想

◎東海100万人デジタルユニバーシティ構想

- ◆ 東海国立大学機構内のDX推進
- ◆ 機構デジタルコンテンツの社会利用促進
- ◆ 教育研究のデジタルコンテンツ化
- ◆ 教育研究のデジタルコンテンツの規模と流通性・相互運用可能性を高め、東海地区の大学、産業界、高校生、市民、病院利用者など、100万人のステークホルダーに場を提供し、地域全体のDXを牽引する



共通IDとデータ共有基盤を地域に開放 → 機構の知と人的ネットワークを提供 → 地域全体のDXを先導

名古屋大学・東海国立大学機構の挑戦

- ◆ 東海国立大学機構は、全く新しい日本型大学連合の形を提示する
- ◆ 世界トップレベルとしての存在感と地域創生の中心、2つの異なったコンセプトを同時に実現
- ◆ 東海地域を丸ごと、変革していく



東海機構次期執行部（統合報告書より）